

令和6年度小野高校で育成する資質・能力ルーブリック【年度始め】

令和6年4月

年 組 番

■小野高校の学習活動全体を通して、次の資質・能力の育成を意識し、学習活動を展開する。

■年度始め、前期期末、後期末に生徒が自己評価を行い、生徒・教師ともに学習活動の評価、改善を行う。

■各項目の下線部はレベル分けの目安となる語句である。

※1【到達目標】授業を履修した人が最低限身につける内容を示す目標

※2【履修目標】授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標

| 資質・能力の 三つの柱 | 項 目 | 評 価 内 容 | レベル1 | レベル2 | レベル3 | レベル4 | レベル5 |
|------------------------------|------------------|---------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|---|---|--|
| | | | 相当の努力を要する | 努力を要する ※1【到達目標】 | やや努力を要する | 十分に満足できる ※2【履修目標】 | 期待している以上である |
| | | | 到達目標を達成できていない | 到達目標を超えたレベルを達成している | 到達目標と履修目標の間にあるレベルを達成している | 履修目標を達成している | 履修目標を超えたレベルを達成している |
| 知識 ・ 技能 | 基礎学力 | 社会人として必要な基礎的・基本的な力 | 学習活動で扱う基礎的・基本的知識・技能の習得が3割未満である。 | 学習活動で扱う基礎的・基本的知識・技能の習得が3～5割程度である。 | 学習活動で扱う基礎的・基本的知識・技能の習得が5～8割程度である。 | 学習活動で扱う基礎的・基本的知識・技能の習得が8割以上である。 | 習得した基礎的・基本的知識・技能を実生活等、広くいろいろな方面に使用することができる。 |
| | 系列の専門性 | 社会で活かされる専門的な力 | 学習活動で扱う専門的知識・技能の習得が3割未満である。 | 学習活動で扱う専門的知識・技能の習得が3～5割程度である。 | 学習活動で扱う専門的知識・技能の習得が5～8割程度である。 | 学習活動で扱う専門的知識・技能の習得が8割以上である。 | 習得した専門的知識・技能を実生活等、広くいろいろな方面に使用することができる。 |
| 思考力 ・ 判断力 ・ 表現力等 | 思考力 | 筋道を立てて思考する力 | ※3「考えるための技法」を意識して考えようと努めることができない。 | 「考えるための技法」を意識して考えようと努めることができる。 | 「考えるための技法」を意識して自らの考えをまとめることができる。 | 情報を収集し、「考えるための技法」を意識して、自らの考えをまとめることができる。 | 情報を収集し、「考えるための技法」を意識して、説得力のある主張をすることができる。 |
| | | 他者の考えを的確に理解する力 | 他者の考えを理解しようと努めることができない。 | 他者の考えを理解しようと努めることができる。 | 他者の考えを「考えるための技法」を意識して整理し、理解しようと努めることができる。 | 他者の考えを「考えるための技法」を意識して整理し、自分なりに理解することができる。 | 他者の考えを「考えるための技法」を活用して整理し、的確に理解することができる。 |
| | 判断力 | 社会的基準や適切な根拠に基づいて判断する力 | 基準や根拠に基づいて判断することができない。 | 自分なりの基準や根拠に基づいて判断することができる。 | 社会的な基準や適切な根拠に基づいて判断することができる。 | 社会的な基準や適切だと思われる根拠を、自ら再検討した上で判断することができる。 | 基準や根拠が不確かな状況で、最適解や納得解を見いだすことができる。 |
| | 表現力 | 自らの考えを的確にまとめる力 | 自らの考えをまとめることができない。 | 自分なりに、自らの考えをまとめることができる。 | 十分な情報収集、検討をふまえて、自らの考えをまとめることができる。 | 十分な情報収集、検討をふまえて、確かな根拠に基づいて自らの考えをまとめることができる。 | 十分な情報収集、検討をふまえて、反論への対応も含む自らの考えをまとめることができる。 |
| | | 相手の立場に立って表現する力 | 自らの考えを話したり書いたりすることができない。 | 自分なりに、自らの考えを話したり書いたりすることができる。 | 他者や目的を意識して、自らの考えを話したり書いたりすることができる。 | 他者や目的を意識して、文章表現や視覚的・聴覚的效果を工夫して自らの考えを話したり書いたりすることができる。 | 他者や目的を意識して、優れた文章表現や視覚的・聴覚的效果を駆使して自らの考えを話したり書いたりすることができる。 |
| | 課題発見 ・ 解決力 | 解決すべき課題を見極める力 | 自ら課題を設定することができない。 | 自ら課題を設定することができる。 | 十分な情報収集、検討をふまえて、自ら課題を設定することができる。 | 十分な情報収集、検討をふまえて、自らにとって切実な課題を設定することができる。 | 十分な情報収集、検討をふまえて、実社会と関係する課題を設定することができる。 |
| 解決策を考え実行する力 | | 自ら課題の解決策を考えることができない。 | 自ら課題の解決策を考えることができる。 | 自ら課題の解決策を考え、実行することができる。 | 自ら課題の解決策を考え、実行し、成果を上げることができる。 | 自ら解決策を考え、実行し、社会に貢献する成果を上げることができる。 | |
| 学びに向かう 力 ・ 人間性等 | 主体性 | 積極的に自らの目標達成に向けて取り組む力 | 自ら目標を設定することができない。 | 自ら目標を設定することができる。 | 自ら目標達成に向かって努力することができる。 | 自ら目標を達成するまで努力することができる。 | 目標達成後も自ら新たな目標を設定し、達成に向けて努力し続けることができる。 |
| | 協調性 | 思いやりの心を持ち、コミュニケーションを大切に協働して生きる力 | 思いやりの心を持ち、他者とコミュニケーションを取ることができない。 | 思いやりの心を持ち、他者とコミュニケーションを取ることができる。 | 思いやりの心を持ち、コミュニケーションを大切に、協働作業をすることができる。 | 思いやりの心を持ち、コミュニケーションを大切に、協働作業で成果を上げることができる。 | 立場や世代の異なる他者との協働作業で成果を上げることができる。 |
| | 社会性 | 自らの役割を果たし、集団や社会に貢献する力 | 集団の中で自らの役割を果たすことができない。 | 集団の中で自らの役割を果たすことができる。 | 自らの役割を果たし、集団活動の向上に貢献することができる。 | 求められる以上の役割を果たし、集団活動の向上に貢献することができる。 | 自ら社会で求められる役割を認識し、よりよい社会の実現に貢献することができる。 |

※1「到達目標」、※2「履修目標」、並びに各レベルの設定について、横浜国立大学「教員向け授業別ルーブリック作成マニュアル」を参考にさせていただきました。

※3「考えるための技法」…「高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編」p97に次の10項目が例示されている。

「順序づける」…複数の対象について、ある視点や条件に沿って対象を並び替える。／「比較する」…複数の対象について、ある視点から共通点や相違点を明らかにする。

「分類する」…複数の対象について、ある視点から共通点のあるもの同士をまとめる。／「関連付ける」…複数の対象がどのような関係にあるかを見付ける。ある対象に関係するものを見付けて増やしていく。

「多面的に見る・多角的に見る」…対象の持つ複数の性質に着目したり、対象を異なる複数の角度からとらえたりする。／「理由づける（原因や根拠を見付ける）」…対象の理由や原因、根拠を見付けたり予想したりする。

「見通す（結果を予想する）」…見通しを立てる。物事の結果を予想する。／「具体化する（個別化する、分解する）」…対象に関する上位概念・規則に当てはまる具体例を挙げたり、対象を構成する下位概念や要素に分けたりする。

「抽象化する（一般化する、統合する）」対象に関する上位概念や法則を挙げたり、複数の対象を一つにまとめたりする。／「構造化する」…考えを構造的（網構造・層構造など）に整理する。